

## 【主教会メッセージ】

### “戦後 70 年” に当たって

“わたしはあなたを国々の光とし わたしの救いを地の果てまで、もたらす者とする。”

(イザヤ 49 : 6)

#### 〈はじめに〉

日本聖公会に連なるすべての皆様の上に主のご復活のお喜びと主の平和がありますようお祈りいたします。

今年、2015 年はアジア・太平洋戦争が終結してから 70 年目に当たります。日本の敗戦により戦争は終結しましたが、この戦争により、2000 万人とも言われるアジア・太平洋地域の人々、日本国内の人々が犠牲になりました。70 年を経ても戦争の犠牲や被害による様々な傷は癒えてはいません。殊に、日本が侵略した国々との和解と平和が未だに実現していないことを、わたしたちは反省と痛みをもって覚えます。

戦後 70 年に当たり、わたしたちはこの戦争で犠牲になった人々、また、今もその痛みや苦しみ、悲しみの中にある人々のために祈ると共に、世界の平和に向けての日本聖公会のあるべき姿を改めて確認したいと思います。

#### 〈日本聖公会の戦争責任〉

この時に当たり、わたしたちが想い起したいことは、1995 年に開かれた「日本聖公会宣教協議会」のことです。「日本聖公会の宣教一歴史への責任と 21 世紀への展望」の主題のもと行われたこの協議会において、日本聖公会の戦争責任を認め、その反省の上に、21 世紀に向けて、日本にあって歴史的に支配や戦争の被害を受け、今も差別を受けている人々—在日韓国朝鮮人をはじめとする他のアジアの人々、沖縄の人々、アイヌの人々、被差別部落の人々、障がいを持つ人々、女性たち、など—と共に歩むことを宣教の中心課題としていくことを確認しました。

さらに、翌 1996 年開催の日本聖公会第 49(定期)総会では「日本聖公会の戦争責任に関する宣言を決議する件」が採択され、全教会が日本聖公会の戦争責任を共有し、日本が侵略した諸国の教会に対し日本聖公会としての謝罪の意志を伝えるとともに、各教区・教会において歴史的事実の認識と福音理解を問い直し、深めるための取り組みを継続して進めることを決議しました。

そして、アジアにおける各聖公会との協働関係—殊に、大韓聖公会、フィリピン聖公会との協働関係—を築くことに努め、また、沖縄における平和と人権問題への関わりを推し進めてきました。南北朝鮮の平和統一を含む東アジア全体の平和と和解、そして、沖縄における平和の確立は今後とも日本聖公会の宣教活動の大事な課題であり続けることを改めて確認し、その実現のため努力を続けていきます。

### 〈東日本大震災と 2012 年宣教協議会〉

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の災害は、その地に生きるすべての命に対して重大な犠牲と被害をもたらし、また、わたしたちの生き方や教会のありように対して根本的な問いかけとなりました。そのことを踏まえ、2012 年 9 月には「いのち、尊厳限りないもの～宣教する共同体のありようを求めて～」を主題として日本聖公会宣教協議会が開催され、「日本聖公会＜宣教・牧会の十年＞提言」が出されました。

それは日本聖公会の決意として、「悲劇に満たされたこの世界・社会において、絶望の内にある人びとのかすかな声に耳を傾け、声を出せない人びとの『声』となって行くこと、圧倒的に希望を奪われた状況の中に生きる人びとに対して、・・・、神の祝福“＜いのち＞の喜び”を語り続けること、それがたとえ、か細い声や小さな祈りであったとしても語り続けること」を大切に歩んでいくことを表明しています。

### 〈これからの日本聖公会のありかた〉

ここ何年かの日本の政治情勢を見ると、特定秘密保護法の成立、集団的自衛権の行使容認、憲法「改定」の動き、特に戦争の放棄を謳った憲法第 9 条の改定など日本の再軍事化への動きが加速されています。それに伴い、沖縄米軍基地の固定化、また、韓国、中国との関係の悪化等、平和や安定が脅かされる状況が生まれつつあります。

また福島第一原子力発電所事故による放射能汚染は事故後 4 年を経た今も、まだ深刻な状況が続いています。経済的格差は広まり、貧困の故に最低限の生活さえ困難な人々も増えています。ヘイトクライム・ヘイトスピーチによる人権侵害も激しくなっています。また世界各地で戦争や紛争も激化し絶えることはありません。そのような状況であるからこそ、戦後 70 年を迎えたわたしたちは、これまでの歴史から、また主イエスの福音から学び、いのちを輝かせる働き、隔ての壁を取り除き、分かたれたものを一つにする平和の器として歩んで行く思いを新たにします。

### 〈平和のしるし・和解の器として〉

主キリストは十字架の死の前に「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。」(ヨハネ 17:21)と祈られました。そして復活された後、弟子たちに現れ、「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」と命じて彼らに聖霊を授け、和解の務めへと送り出されました(ヨハネ 20:21 以下)。

わたしたちは日本社会の中であって小さな群れです。しかし主キリストにあって一つであること、そして、いのちを尊び、祝福しあう共同体として、共に礼拝し、仕え、歩むことで、それぞれの地域での“平和のしるし”となることのできるのです。

戦後 70 周年に当たり、わたしたちは主に在って一つであることが“平和のしるし”となることを覚えます。そして「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」や「日本聖公会＜宣教・牧会の十年＞提言」に掲げられている取り組みを丁寧に実践し、主キリストの十字架の死と復活によって示された和解と平和を告げ知らせて行きたいと願います。

2015 年 復活 日

日本聖公会主教会